



# 東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2024年7月1日発行

第42号(通巻第318号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

## JR東日本労働組合 第13回定期大会



とき:2024年7月9日(火)  
11時00分より  
ところ:新潟市万代市民会館

# 夏季手当 追加支給の考えはないと回答

### 本部申27号・2024年度夏季手当について1.0ヶ月分の追加支給を求める申し入れ団体交渉

中央本部は6月3日、本部申27号「2024年度夏季手当について1.0ヶ月分の追加支給を求める申し入れ」の団体交渉を行いました。

組合側は好調な業績やこれまでの社員の奮闘を訴え夏季手当に対する1.0ヶ月の追加支給を強く求めましたが、経営側は追加支給を行う考えはないとの回答に終始しました。

◆ 期末決算における単体の営業利益は、昨年4月の通期計画から76.8億円、第3四半期決算での上方修正からは35.8億円上回る253.8億円でした。

◆ 組合側は、この業績を生み出した背景に並々ならぬ社員の努力があったことを指摘し、上方修正予想を上回った35.8億円の半分、全社員に対して1.0ヶ月分の追加支給ができるかと訴えました。

経営側は、2.7ヶ月とした夏季手当は期末決算ではなく、第3四半期決算

の営業利益がベースであり、3月までの業績や期末決算の上方修正達成の見通し、物価等の生活実態などを加味し、社員の奮闘を一定程度盛り込み判断したものだとし、組合側は、業績予想を大きく上回る期末決算となったため追加支給を実施しなければ、「新賃金・夏季手当の同時議論は賃金支給の抑え込み手法だった」と経営側自ら認めたようなものだを指摘しました。

経営側は、社員の奮闘を前提として、直近の業績や足元の業績を踏まえて総合的に判断したもので、新賃金・夏季手当の同時検討は一定の合理性があり間違っていないとの考えを繰り返しました。

組合側は、社員の努力を一定程度加味した上で、結果配分として1.0ヶ月の追加支給が必要であると繰り返し訴えましたが経営側は、期末決算を見て2.7ヶ月で妥当として、追加支給や再考の考えはないとする姿勢を変えませんでした。

株主に対しては期末決算で増配したことから組合側は、利益が出ている以上は社員に対しても追加支給を行うことを強く求めましたが経営側は、株主配当と賃金・手当は性質が違い、社員個々の受け止めはあろうと思うが、支払い体力の有無ではなく「追加支給はしない」ことを判断したとしました。

組合側は、社員の努力を一定程度加味した上で、結果配分として1.0ヶ月の追加支給が必要であると繰り返し訴えましたが経営側は、期末決算を見て2.7ヶ月で妥当として、追加支給や再考の考えはないとする姿勢を変えませんでした。

折角ソフトボールをするのだから、分会以外の仲間ともプレーをしようと、地本や支部を通して多くの職場からも参加者を募りました。

当日は観戦者を含め78名が集まり、快晴のもと楽しく身体を動かし、スポーツを通して交流することができました。

大会後には懇親会を開催し、50名を超える仲間が参加して懇親を深めました。

参加者からも、「久しぶりに大勢で楽しく過ごせました。声を掛けてく

れてありがとう」「次に仕事を超える仲間が参加して懇親を深めました。ソフトボールを通して知り合いが増えた」「またやりましょう」などの声が聞かれ、好評を得ました。

(新潟運輸区分会 投稿)

## 青空の下でプレイボール!

### 新潟運輸区分会主催 ソフトボール大会



新潟運輸区分会では6月4日(火)、新潟市のエコスタジアムにおいて、分会主催「ソフトボール大会」を開催しました。

大会後には懇親会を開催し、50名を超える仲間が参加して懇親を深めました。

参加者からも、「久しぶりに大勢で楽しく過ごせました。声を掛けてく

れてありがとう」「次に仕事を超える仲間が参加して懇親を深めました。ソフトボールを通して知り合いが増えた」「またやりましょう」などの声が聞かれ、好評を得ました。

## 3月ダイヤ改正に関して 新幹線統括本部に申し入れ

今年3月16日に実施されたダイヤ改正から3ヶ月が経過しました。

北陸新幹線の金沢〜敦賀間が開業する一方で、上越新幹線では新潟行き最終列車の時刻を繰り上げなどの変化があった中で、ゴールデンウィーク期間中の新幹線のご利用状況は対前年比10.3%となり概ね順調な運行を確保してまいりました。

新たな商品価値を生み出すダイヤ改正は利便性向上を実現し、利用促進を図る必要があることから、新幹線統括本部に提出し



れている課題に向き合い、改善に向けて検討していくことが必要です。

また一方で、社員の働き方が複雑化するなかで、社員に対し間違った業務指示の説明が未だに放置されている企業体質を改めることが必要です。

中央本部は6月25日、現場に存在するコンプライアンス違反の温床を断つとともに、新幹線をご利用されるお客さま視点に立った運行を求めて、幹申3号・2024年3月ダイヤ改正に関する申し入れを新幹線統括本部に提出し

1. 余裕を持った乗り換え時間確保のため、同一線区、同一方向における新幹線の乗り換えは、対面乗り換えとする。

2. 2024年3月ダイヤ改正説明会の場で説明された「その他時間」の内容が間違っているため、改めて正しい内容を社員説明すること。

3. 間違った説明をした原因と、その状態を放置している理由を明らかにすること。

4. 第3項の対策を明らかにすること。

## JR東日本労働組合 新潟地方本部 第13回定期大会



2024年7月29日(月)  
12時30分より  
新潟市 万代市民会館